

## 第 49 回日本神経学会専門医試験の総括

第 49 回（2023 年度）日本神経学会神経内科専門医試験は 206 名が合格して終了しました。新規受験者の合格率は 81% で例年と同様でした。過去 3 年間の試験は COVID-19 パンデミックのために複数会場で行われる、あるいは第 2 次（面接）を web で行う、など変則的な形をとりましたが、今年度第 49 回試験は通常通りに一次試験を 10 月 7 日、二次試験を 11 月 12 日に現地開催（東京）で行いました。今回は COVID-19 の影響を受けずに試験を実施できました。専門医認定委員、面接試験官、問題作成協力員の先生方、神経学会事務局の皆様には多大な尽力をいただき感謝申し上げます。

2021 年（第 47 回）から筆記試験の問題数が従来の 300 題（必修 100、一般 100、症例 100 題）から 200 題（必修 100、一般と症例を合わせて 100 題）に変わり、今回も 200 題が出題されました。症例サマリー 10 例に対する査読は例年通り実施されています。サマリーは受験者が経験した重要な症例に関し、その診断・治療に至る思考過程を示す重要な資料で、面接試験の際に設問として活用されますので、充実した適正な内容のものを提出されるようお願いいたします。

### 1) 必修問題について

必修問題は 1 択問題を原則とし、委員会では 80% の正答率を期待して問題を作成しています。今回の正答率は 72% でありほぼ例年と同様でした。必修問題と言えども単なる知識でなく思考過程や解釈を意識した問題作成を行っており、受験生はそれを意識して学習していただきたいと思います。例年正答率が低めの分野としては、頭痛、自律神経、脊髄・末梢神経の臨床解剖（筋節など）、神経生理、法規・倫理・社会制度があげられ、逆に正答率が高い分野は認知症、てんかん、脳卒中などでしたが、今年度は分野による格差はなく全体に高得点であったと言えます。

必修問題で問われるのは神経学の臨床を実践する上での基礎です。まずはしっかりとした教科書・診療ガイドラインから、満遍なく基礎的な学力を身につけられるよう希望します。これらを暗記するのではなく、背景となる考え方をしっかり身につけてください。また、臨床症状と関連する神経解剖、神経生理、神経病理の基礎的な知識もあわせて勉強していただきたいと思います。

### 2) 一般・症例問題について

前々回から従来の一般問題と症例問題を併せた 100 題が一般問題として出題されました。正答率は一般 57%、症例 70% でした。3 つのカテゴリーの中で最も難しく、正答率が低いのは一般問題であるのは例年と同様で、今年が特に悪いというわけではありません。

一般問題は必修問題で問われる専門医として必須と思われる知識・解釈よりやや難しく、分野によっては数年以内に改定された診断基準や、報告されて間もない画像診断、新規承認薬、新規遺伝子変異などが含まれるため正答率はやや低くなるのが通例です。一般・症例問題においても分野による大きな正答率の差異は見られませんでした。社会医学としての指定難病、身体障害の認定、介護保険制度などに関する正答率もまずまずで、脳神経内科医に広く求められている事項をよく理解されていたと思います。

これからも思考過程を問う問題の比重が大きくなると思われますので、日常臨床の中で、それぞれの臨床所見・検査の持つ意味、結果を臨床にどのように生かすかといった議論を深めて頂きたいと思えます。

### 3) 面接試験

面接試験は審査員2名がそれぞれ10分ずつ、計20分の口頭試問を(1)提出されたサマリーに記載されている症例を中心とした神経学の基礎的知識を問う問題と、(2)神経症候・検査の意味付けや普段行っている神経学的診察のやりかた・鑑別診断・治療方針の決め方などについて、総計40分で問われました。診察法は、標準的な診察手技から大きく外れた受験生はほとんどいなくなり、今年の不合格者は209名中3名のみで、Babinski徴候の手技、腱反射診察時の姿勢に問題のあったこと、病歴のみの時点で解剖学的診断・鑑別診断が整理できない、などが不合格の理由となりました。末梢神経系の診察、失語を含む高次脳機能の評価などは十分でない受験生がいることをコメントする声もありました。日々の脳神経内科診療が十分なレベルでなされているかを見るために反射の手技、筋強剛の評価、高次機能評価など基本となる手技はしっかり身につけて試験に臨んでください。

症例サマリーの記載は非常に重要です。試験前にはサマリーをもう一度熟読して、記載内容を過不足なく説明できるよう準備をしておいてください。

今回の専門医試験の総括について述べました。COVID-19の影響を脱して筆記・面接試験とも従来型の体制で施行でき、専門医認定委員・学会事務局一同も安堵しています。今後も受験生の皆さんには、神経解剖学・生理学・病理学の基本的理解の上に立って、総合的に臨床神経学を学んでいただくことを希望します。

2023年11月18日  
日本神経学会専門医認定委員会  
(文責 認定委員長 桑原 聡)